



事務局

全国水環境マップ実行委員会（問合わせのみ）

〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町11-9 住友生命日本橋小伝馬町ビル2階

財団法人 河川環境管理財団内 TEL：03-5847-8303

URL:<http://www.kasen.or.jp/>

連絡事務局

みずとみどり研究会気付（申込・問合わせ）

〒185-0021 東京都国分寺市南町3-23-2 小松ビル3階

TEL/FAX：042-327-3169

E-mail：mizutomidoriken@ybb.ne.jp

URL：http://www.japan-mizumap.org

2007年12月発行

身近な水環境の 全国一斉調査

●●笑顔でつなぐゆたかな水辺●●

調査結果概要

2007

目次

I	調査の背景	P. 1
II	調査の実施手法	P. 2
III	調査結果の概要	P. 3
	全国一斉調査諸データの推移	P. 4
	2007 全国水環境マップ 第4回 身近な水環境の全国一斉調査結果	P. 5
	2004 全国水環境マップ 第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果	P. 6
IV	各ブロックでの調査結果	P. 7
	北海道地方 P. 7	近畿地方 P. 12
	東北地方 P. 8	中国地方 P. 13
	北陸地方 P. 9	四国地方 P. 14
	関東地方 P. 10	九州地方 P. 15
	中部地方 P. 11	沖縄地方 P. 16
V	全国の参加者からの意見	P. 7～P. 16
VI	一斉調査結果の活用事例紹介	P. 17
VII	全国水環境マップ実行委員会名簿	P. 20
VIII	身近な水環境を調べよう！第5回「身近な水環境の全国一斉調査」参加のお誘い	P. 21
	第5回「身近な水環境の全国一斉調査」参加申込書	P. 22

「身近な水環境の全国一斉調査」とは

毎年6月に統一調査日を設け、市民団体と国土交通省などの連携により、全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を調査しているものです。

本誌は、その結果をマップとしてまとめ、参加者の皆様のご意見を記載しています。



I 調査の背景

近年、河川や水辺など身近な水環境の保全や修復に関する市民の意識が高まっています。市民や学校の子どもたちによる身近な川の一斉調査は1980年代の半ばから、多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきました。しかし、調査の方法や項目などは必ずしも統一されておらず、水質の測定精度も十分に保証されていません。このような多くの結果を有効に利用するためには統一的な調査マニュアルを作成し、測定精度の管理システムと全国各地の結果を比較できるデータベースを確立することが重要です。

多くの市民や学校の子どもたちが統一的な調査マニュアルにもとづき、身近な水環境を全国一斉に調査し、その結果をわかりやすいマップで表現することにより、全国の状況が一目でわかり、身の回りの環境に関する市民の理解と関心がさらに深まることが期待されます。そのため全国で水質調査を実践している市民団体等が国土交通省及び財団法人河川環境管理財団と連携して、全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を一斉に調査し、全国の水環境マップを作成することにしました。

「身近な水環境の全国一斉調査」により多くの河川などで水辺の様子や水質などの現状が把握できます。一斉調査は当日の天候にも影響されますが、さらに継続して実施することにより水環境の変化やその原因などが明らかになります。市民が自ら水質を調査し、水環境の実態を明らかにすることにより、その保全と修復に関する今後の活動へ発展することが期待されます。

「身近な水環境の一斉調査」は2004年6月に開始され、4年間の延べ人数で30,000人の市民や学校の子どもたちが参加しました。今後もこの調査を継続することにより、水環境に対する市民の理解と関心がさらに高まり、多くの地点で調査が実施されることを期待しています。

目的と意義

- ① 身近な水環境を簡単な方法で自ら調査することにより、その実態を知ることができる。
- ② 統一的なマニュアルに基づき調査を行うことにより、調査結果を相互に比較する際の精度が向上する。
- ③ 身近な水環境の調査結果をすぐに知ることができる（行政による水質調査結果の公表はおよそ1年後である）。また、全国の結果も速報値として数か月後に知ることができる。
- ④ 河川などの流域で、多くの人たちが調査に参加することにより、面的につながりのある結果が得られる。
- ⑤ 同一条件で調査した身近な水環境と他の地点の結果を比較することにより、身近な水環境の状態を評価できる。
- ⑥ 身近な水環境を流域、さらに広域の環境へ結びつけ、水環境の保全を考えるきっかけとなる。
- ⑦ 水の汚れの原因を調べ、考えるきっかけとなる。
- ⑧ 汚れの原因が明らかになれば、水環境を保全・修復するために、身近にできる実践活動に結びつけることができる。
- ⑨ 調査に参加した多くの人たちと連携の意識をもつことができる。
- ⑩ 子どもたちが調査に参加することにより、100年の眼で将来に活動を引き継ぐことができる。



II 調査の実施手法

調査の概要

調査日：・2007年6月3日(日)を中心に実施

調査者：『全国水環境マップ実行委員会（委員長：小倉紀雄 東京農工大学名誉教授）』 ..
・ のもと、河川の水質に関心のある市民団体や学校などが参加

調査内容・方法：・調査マニュアルに基づき、気温、水温のほか、簡易器材でCODを測定

調査項目

気温・水温・試水水温

一斉調査の調査票には、現地の気温・水温・試水水温と三種類の記入欄があります。現地の気温と水温を記入することで、同一日に行なった各地の気温と水温の分布を全国規模で把握することが出来ます。また、バックテスト(※1)でCODを測定するためには試水水温が重要な要素であり、試水水温を測定することでバックテストの反応時間を把握して、より正確な測定を実施することができます。

COD（化学的酸素要求量）(※2)

水質汚濁の指標の一つとして用いられます。今回の一斉調査では同一のロット番号(製造番号)のバックテストを用いています。また、同一試料を三回測定し、それらの中央値を採用することでより正確な測定を実施することができます。

※1 バックテストは、株式会社 共立理化学研究所の登録商標です。

※2 バックテストの化学的酸素要求量(低濃度)を(COD(D))と表現することとしています。

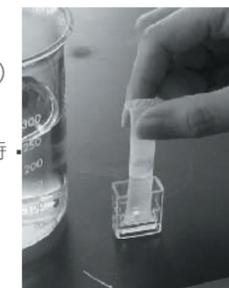
調査の手法

採水

- ① 雨天や増水などによる調査の中止も考慮し、これまでに調査を継続してきた地点や新たに調査して
・ みたい地点を決定します。調査地点を調査票に記入します。
- ② より正確なデータ測定のため、水質の時間変化を考慮し採水時間は午前中に行ないます。
- ③ 試水を入れる容器は予め良く洗って乾かし、採水地点名・記号・採水日時を明記しておきます。
・ 採水器具や試水を入れる容器は、採水を行う川の水で十分に共洗いします。
- ④ 浅く流れが穏やかな川では、川に入り川の中央で上流に向かって採水し、深い川や流れの速い川では、橋などの上からロープをつけたバケツを下ろし採水します。舞い上げられたゴミなどが混入しないよう十分注意して行います。
- ⑤ 調査月日・調査時刻・天気とともに、採水地点の気温と採水した試水の水温を測定し調査票に記入します。

COD(D)値の測定

- ① 試水の温度を測定し反応時間を決定します。
- ② バックテストのラインを抜き取ります。バックテスト専用カップ(バックン)にスポイトで試水を目盛りまで入れます。(約1.5ml)バックテストの空気を抜き、試水を全て吸い上げます。4~5回ゆっくり振り①で決定した反応時間で測定を開始します。
- ③ 反応時間終了後ただちに標準色と比べ、測定値を調査票に記入します。
- ④ 同じ試水で3回測定します。



調査結果の概要

今年も47都道府県で調査が実施され、各地で独自のマップが作成されています

全国各地で調査が実施され、学校の授業の一環としても行われました。

各地で本調査結果を用いて自分たちの身近な河川単位などで独自のマップづくりがなされていたり、参加者のHPなどで全国一斉調査に参加した状況が掲載されています。

調査実施日・調査地点数

全国統一日に実施された調査

調査日・ 2007年6月3日(日)
参加団体数・ 547団体 (個人)
調査地点数・ 3,158 地点

海外で実施された調査

中国・ 調査地点数 2 地点
韓国・ 調査地点数 3 地点

国内で実施された全ての調査

期 間 ・ 2007年5月2日～7月1日まで
参加団体数・ 917団体 ・ [参考：第1回 531団体、第2回 1,000団体、第3回 944団体]
調査地点総数・ 5,473地点 ・ [参考：第1回 2,545地点、第2回 5,018地点、第3回 4,923地点]

調査のまとめ

「身近な水環境の全国一斉調査」の全国的な参加状況、調査地点数の状況などを過去3回と比較すると、地点数は過去最大の5,473地点となりました。去年から継続参加されている方は6割弱となっており、半数近くが新規参加されています。新規の参加団体が増えることは望ましいことですが、継続して同一の地点を見続けることも大切です。定点で継続して調査をすることでその地域の環境をより把握できるので、ぜひ参加者の皆さんには続けていただきたいと思います。

統一日の調査については約3,000地点と過去3回とも安定しています。今後も、全国一斉調査の意義にもあるように、もっと多くの方に多くの地点で統一日に実施していただけるように呼びかけていきたいと思えます。

また、本調査は韓国、中国など海外でも実施されています。全国一斉調査と調査日が異なるなどの理由から参考情報としています。

全国一斉調査諸データの推移

○年別 参加団体及び調査地点数集計結果

作成：全国水環境マップ実行委員会

都道府県番号	都 道 府 県 名	2004年調査団体数	2004年調査地点数	2005年団体数	2005年調査地点数	2006年団体数	2006年調査地点数	2007年団体数	2007年調査地点数
1.	北海道	7	26	17	48	20	112	38	179
2.	青森県	11	35	14	35	11	24	13	41
3.	岩手県	8	24	21	35	12	30	13	36
4.	宮城県	5	58	11	95	17	122	8	96
5.	秋田県	2	5	9	27	9	30	10	44
6.	山形県	105	271	112	275	80	211	28	55
7.	福島県	1	3	4	4	2	3	11	38
8.	茨城県	46	235	43	303	38	295	30	295
9.	栃木県	2	4	2	4	9	27	12	41
10.	群馬県	2	2	10	39	9	36	8	23
11.	埼玉県	47	252	94	444	87	438	46	450
12.	千葉県	4	16	13	40	40	114	17	98
13.	東京都	87	373	116	546	112	521	120	543
14.	神奈川県	19	72	29	193	39	220	41	256
15.	新潟県	5	85	26	190	34	224	30	340
16.	富山県	0	0	7	15	5	9	11	36
17.	石川県	2	13	12	48	6	16	7	19
18.	福井県	6	20	3	41	5	46	3	43
19.	山梨県	49	213	70	250	41	161	36	160
20.	長野県	4	11	19	68	8	64	10	53
21.	岐阜県	5	23	9	29	9	31	9	36
22.	静岡県	24	106	24	93	24	103	17	66
23.	愛知県	22	66	35	142	31	115	27	70
24.	三重県	2	55	11	79	13	82	11	101
25.	滋賀県	4	114	54	473	63	605	86	739
26.	京都府	4	40	7	55	9	49	7	54
27.	大阪府	14	81	14	91	17	124	20	157
28.	兵庫県	2	3	19	65	23	84	22	82
29.	奈良県	2	7	13	26	7	46	6	31
30.	和歌山県	0	0	5	20	2	6	5	13
31.	鳥取県	3	8	4	11	2	4	4	6
32.	島根県	1	2	3	6	4	12	1	2
33.	岡山県	1	20	12	143	16	164	15	176
34.	広島県	1	17	4	45	9	91	7	80
35.	山口県	5	17	6	21	5	18	2	27
36.	徳島県	8	74	16	72	12	29	24	147
37.	香川県	1	2	3	9	5	12	8	18
38.	愛媛県	7	60	39	519	13	166	14	219
39.	高知県	8	33	29	96	34	99	60	197
40.	福岡県	4	29	11	36	11	63	14	56
41.	佐賀県	0	0	33	123	32	110	33	124
42.	長崎県	0	0	7	16	9	15	5	10
43.	熊本県	1	3	2	11	4	15	11	21
44.	大分県	6	9	6	18	5	30	4	21
45.	宮崎県	8	34	8	44	8	44	8	43
46.	鹿児島県	0	0	12	41	15	70	14	77
47.	沖縄県	2	4	13	34	12	33	11	54
.	のべ数	547	2,545	1,031	5,018	978	4,923	937	5,473
.	実団体数	531	.	1,000	.	944	.	917	.

他府県に及んで調査している団体もあるため調査団体の合計は必ずしも一致いたしません。

○海外データ

国名	2004年調査地点数	2004年調査河川数	2005年調査地点数	2005年調査河川数	2006年調査地点数	2006年調査河川数	2007年調査地点数	2007年調査河川数
中国	8	5	63	-	3	-	2	1
韓国	4	1	3	2
チェコ協和国	.	.	2	1

詳細については、ホームページ (<http://www.japan-mizumap.org>) にデータが掲載されています。

○調査グループ記入票集計結果(人)

実施年	2004年	2005年	2006年	2007年
参加者総数	4,000	8,377	8,464	8,151
小学生以下	.	3,739	3,289	2,919
中学生以上の学生	.	945	923	931
大人	.	3,563	3,563	4,516

調査グループ記入票の人数は参加者からの記入されているとおりにカウントしている為、参加者総数と各年代の合計と必ずしも一致しません。

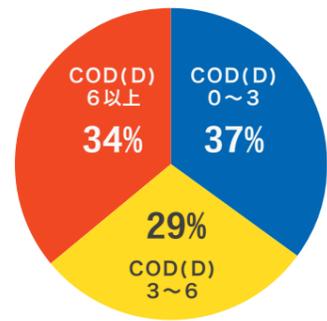
○一斉調査日実施状況

2004年	2005年	2006年	2007年
360団体	600団体	587団体	547団体
1,875地点	3,288地点	3,044地点	3,158地点

2007 全国水環境マップ

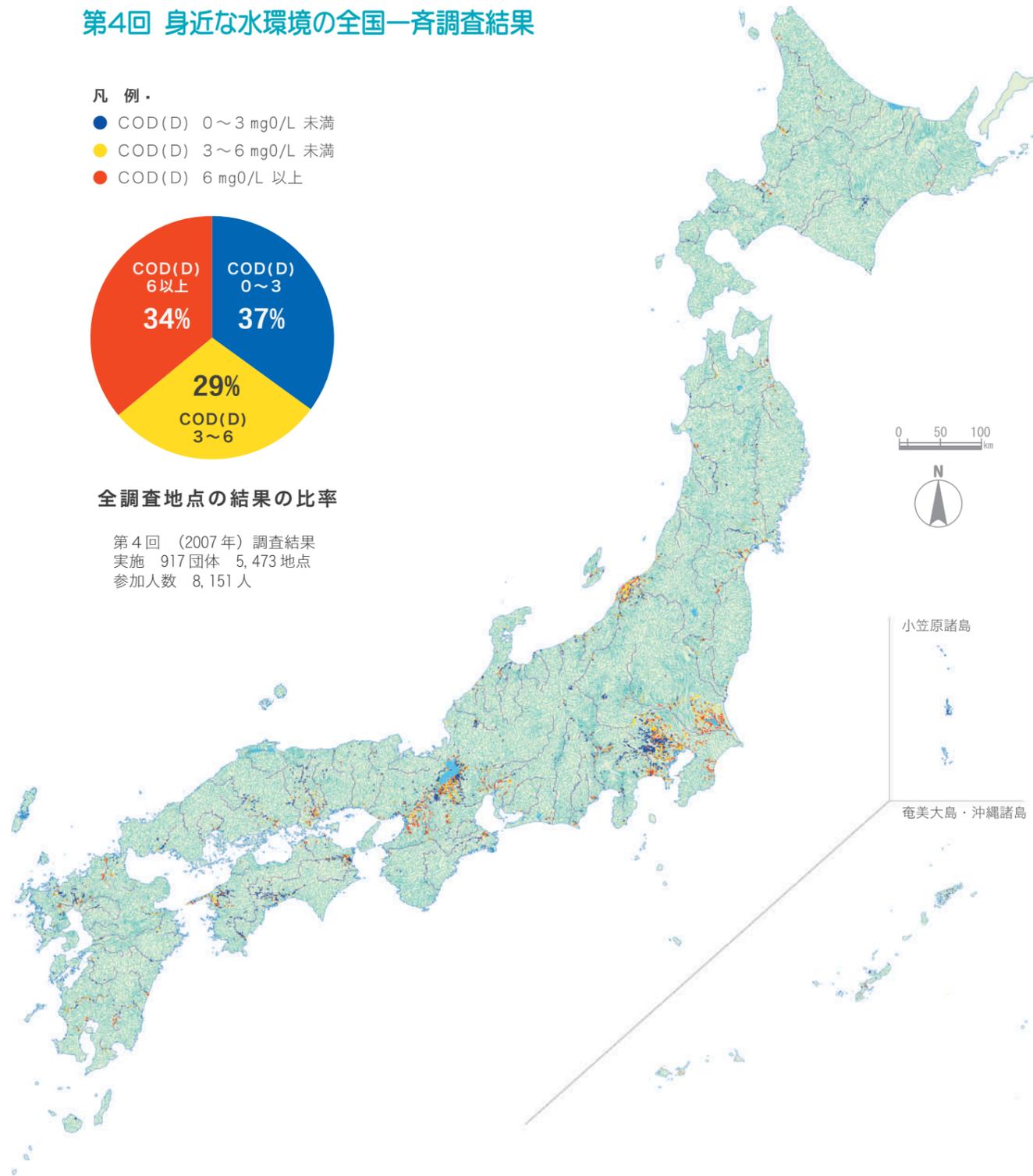
第4回 身近な水環境の全国一斉調査結果

- 凡例・
- COD(D) 0～3 mg0/L 未満
 - COD(D) 3～6 mg0/L 未満
 - COD(D) 6 mg0/L 以上



全調査地点の結果の比率

第4回 (2007年) 調査結果
実施 917団体 5,473地点
参加人数 8,151人

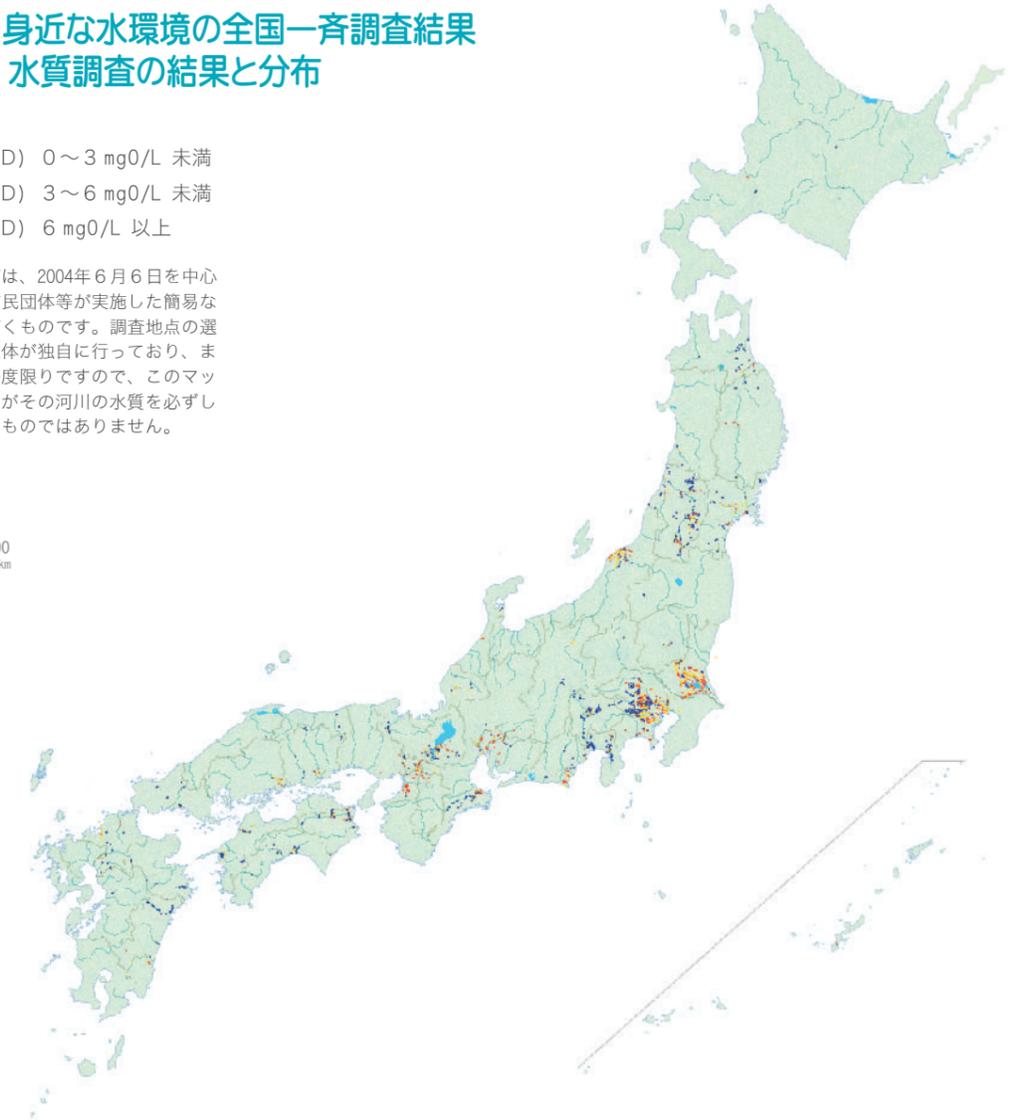


2004 全国水環境マップ

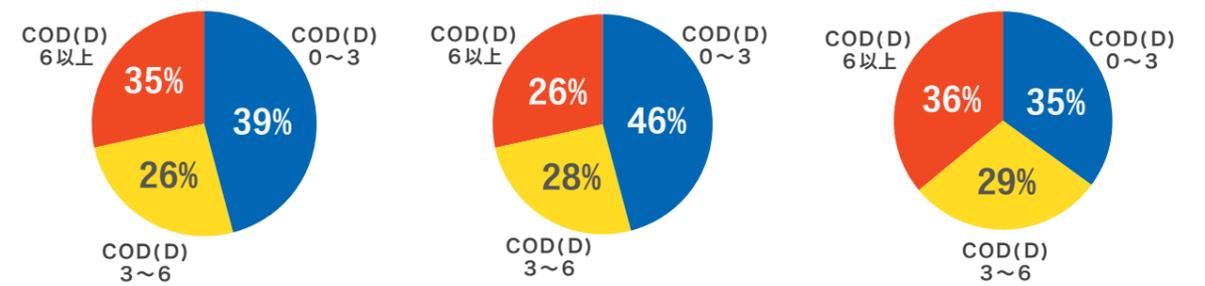
第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果 水質調査の結果と分布

- 凡例・
- COD(D) 0～3 mg0/L 未満
 - COD(D) 3～6 mg0/L 未満
 - COD(D) 6 mg0/L 以上

※このマップは、2004年6月6日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りです。このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。



過去の水質調査の比率



第1回

(2004年) 調査結果

実施 531団体 2,545地点
参加人数 4,000人

第2回

(2005年) 調査結果

実施 1,000団体 5,018地点
参加人数 8,377人

第3回

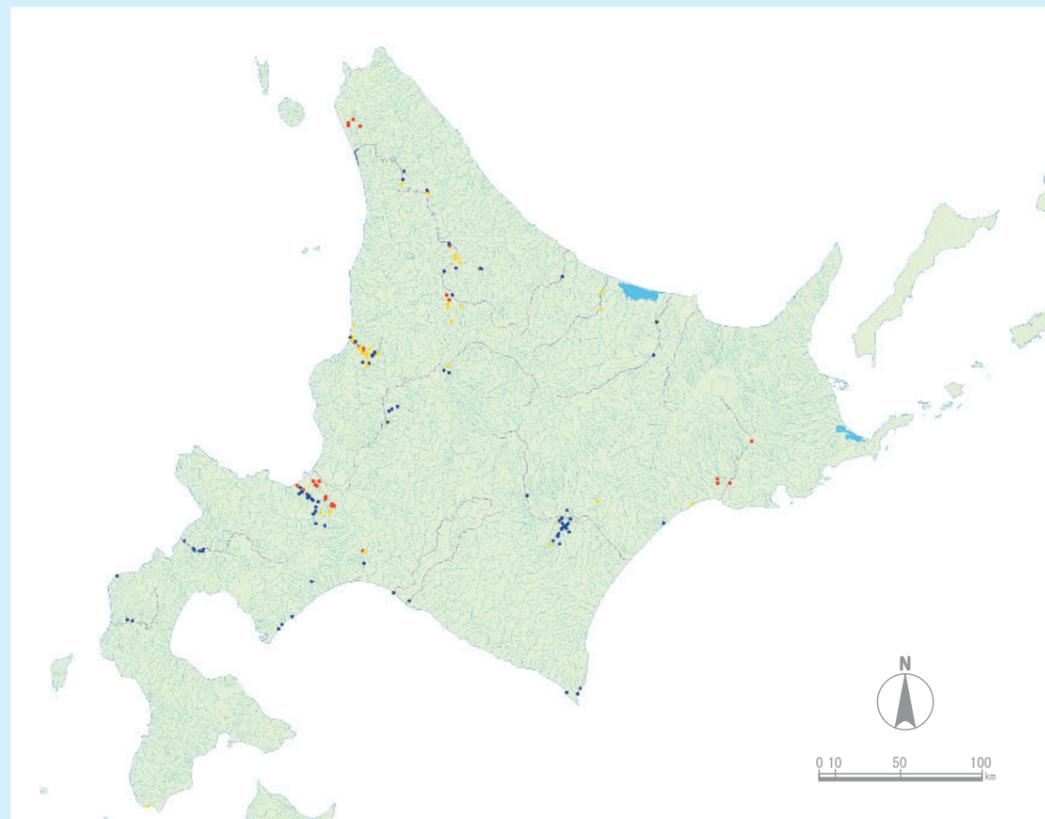
(2006年) 調査結果

実施 944団体 4,923地点
参加人数 8,464人

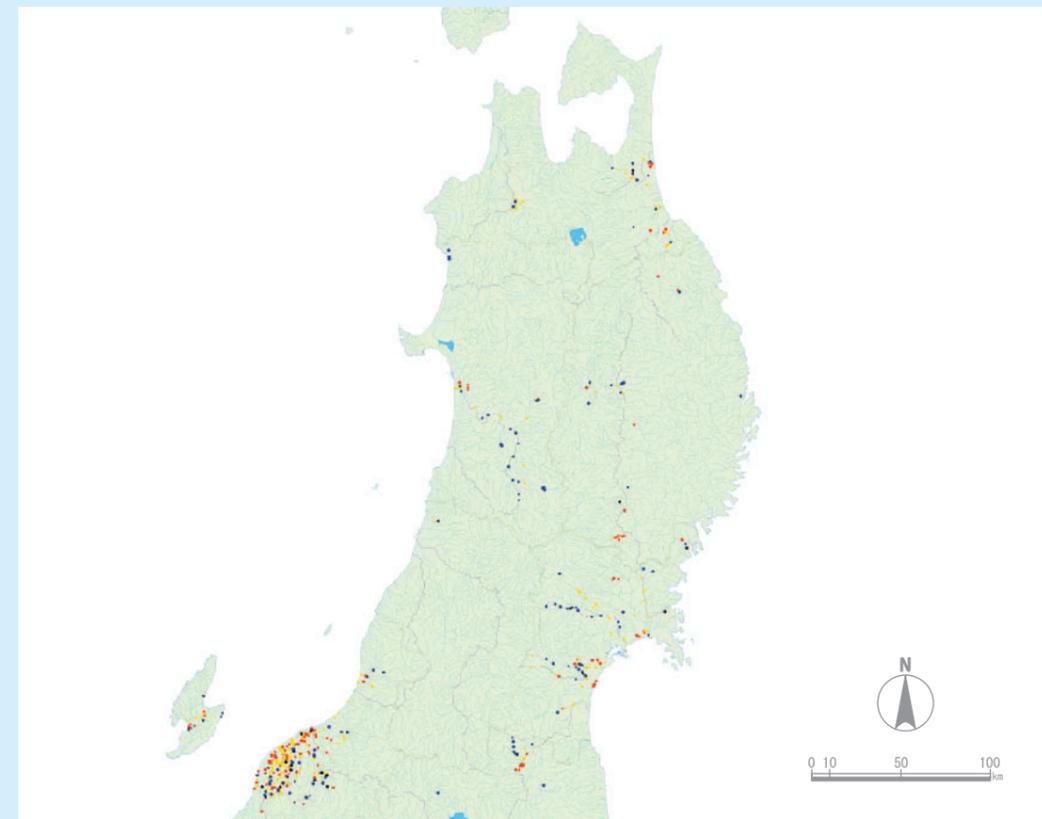
※ このマップは、2007年6月3日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りです。このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

IV 各ブロックでの調査結果

北海道地方



東北地方



※ これらのマップは、2007年6月3日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

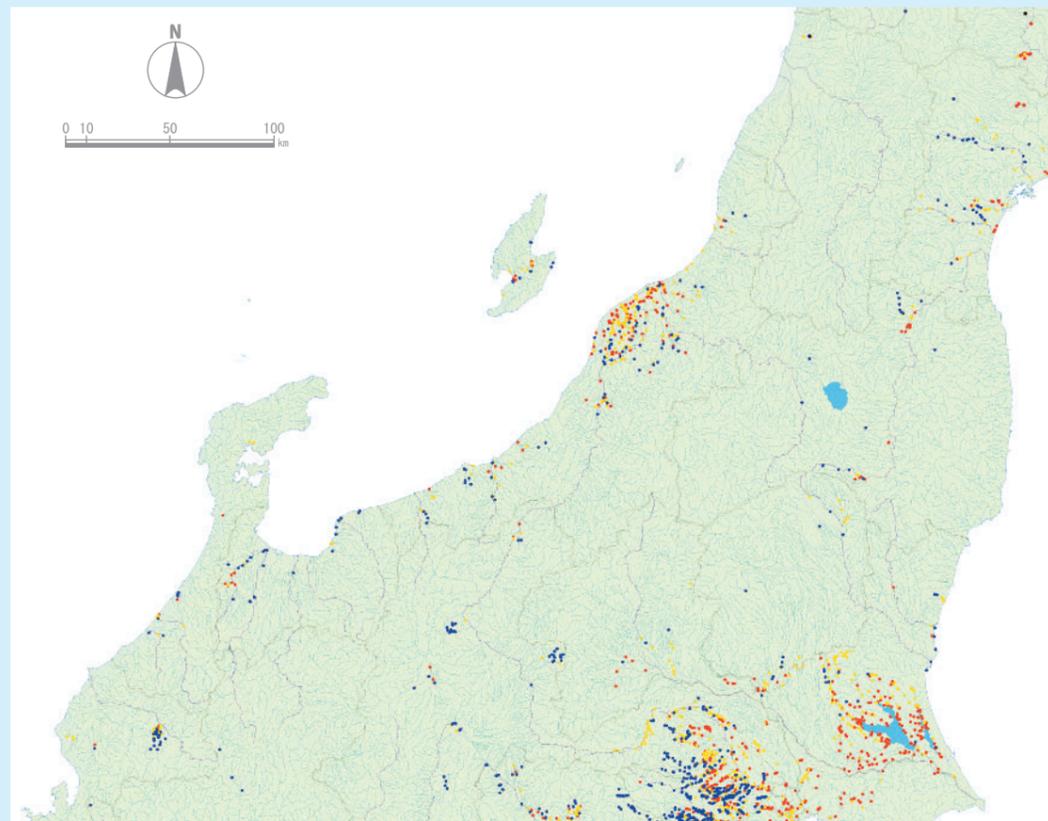
- 凡例・
- COD(D)・0～3 mg/L 未満
 - COD(D)・3～6 mg/L 未満
 - COD(D)・6 mg/L 以上

V 全国の参加者からの意見

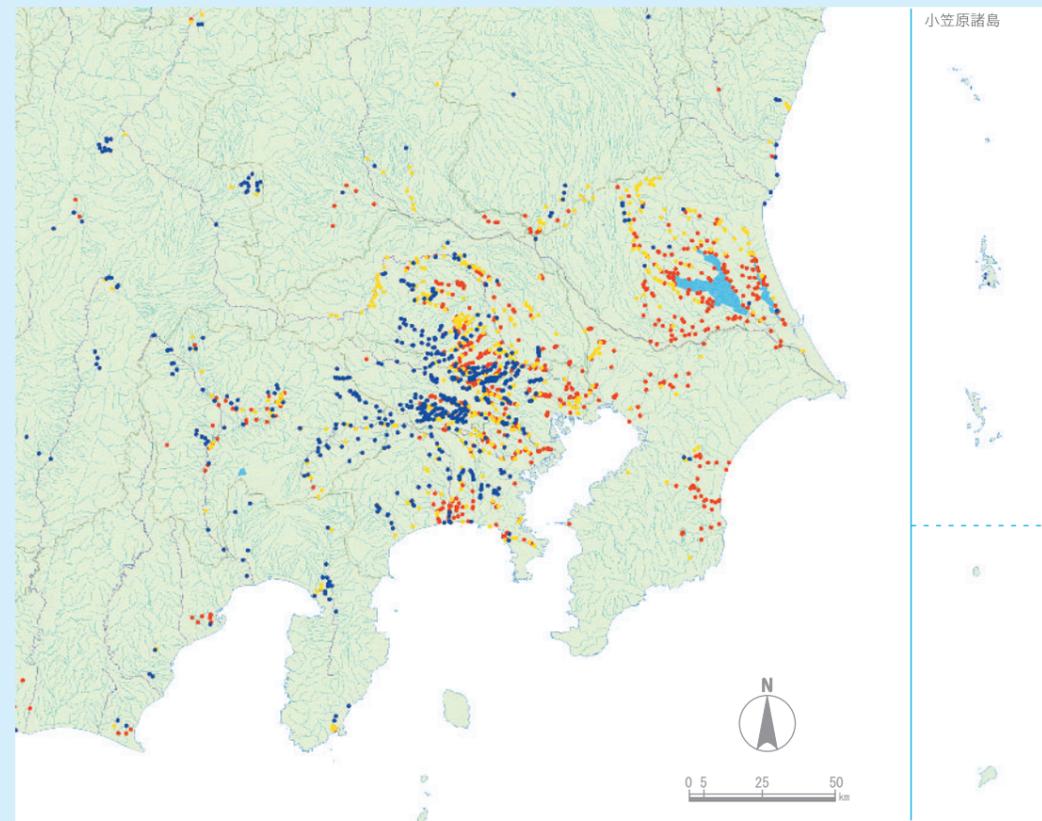
- 生活で水を大切にしようという意識が高まったように思います。来年も是非調査に参加したいと思います。
- 全国一斉と言うことで子どもたちの意識が高まります。水生生物も合わせて調査しました。薬品等用意していただけるので助かります。
- 小学校の総合学習として実施しました。

- 初めての参加でしたがとってもよい経験に成りました。自分たちの身近な川に関心を寄せ自分たちが行った調査結果がマップにのると言うことでやる気にも繋がりました。できれば今後も続けていきたいと考えています。
- 子どもたちの感想の中に「よかったこと」として「ゴミも一緒に拾えた」といった意見がありました。
- 子どもたちの喜びと驚きが最高でした。

北陸地方



関東地方



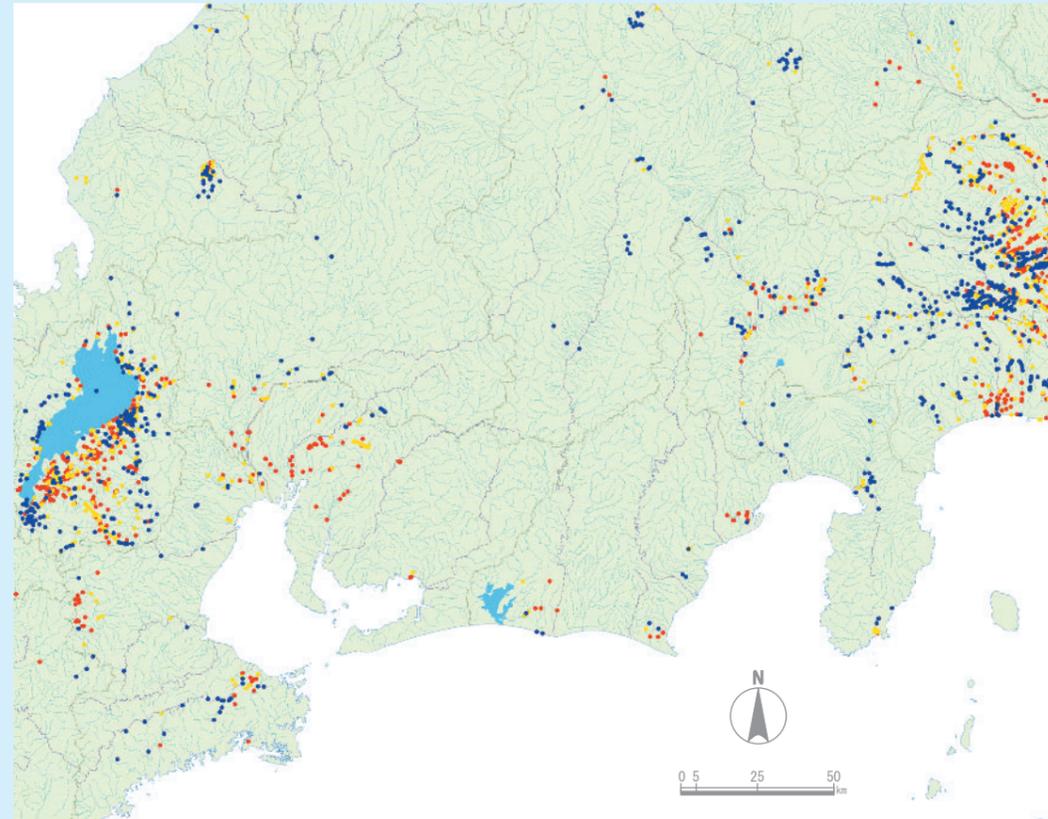
※ これらのマップは、2007年6月3日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

- 自分たちの生活に近い同区内の川を調べました。意外にきれいであることに驚きもあり、楽しく調査できました。調査地付近の植物や動物など生きものの様子と共に水環境を考えて行きたいと思います。
- データ収集も大切ですが、身近な川に関心を持つ人の輪を広げることの大切さを実感しました。楽しく意義のある調査であることをうまくアピールして実施団体、実施者を増やしていけるよう考えたいと思いました。
- 目視と実際の水質に開きのあることを実感し私達の暮らしを考えるきっかけとなった。調査する参加者を広げ、水環境を考えていきたい。

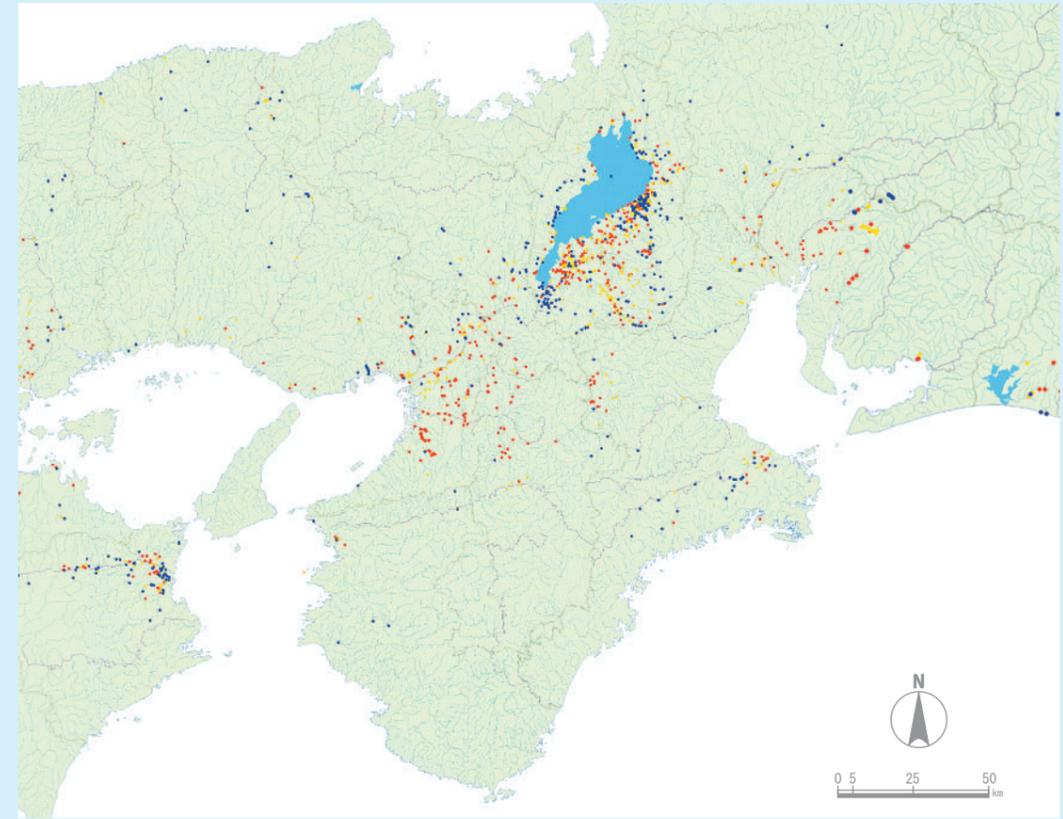
- 当会の行事と同時にいったため忙しかったが生物の分布とCOD値結果に相関性がみられたのは、測定がより正確になってきたあらわれであり、うれしい調査でした。
- 昨年と同じ場所での調査であったが、3地点とも昨年より数値的には悪くなっていました。散乱ゴミも多く状況が悪化したように感じました。しかし、一方で生物は多くなってきているので、調査日にたまたま悪い所が目立ったのかもしれない。
- 調査の輪が広がり、数グループの合同と多人数の参加となりました。来年以降も継続したいと思います。

- 凡例・
- COD(D)・ 0～3 mgO/L 未満
 - COD(D)・ 3～6 mgO/L 未満
 - COD(D)・ 6 mgO/L 以上

中部地方



近畿地方



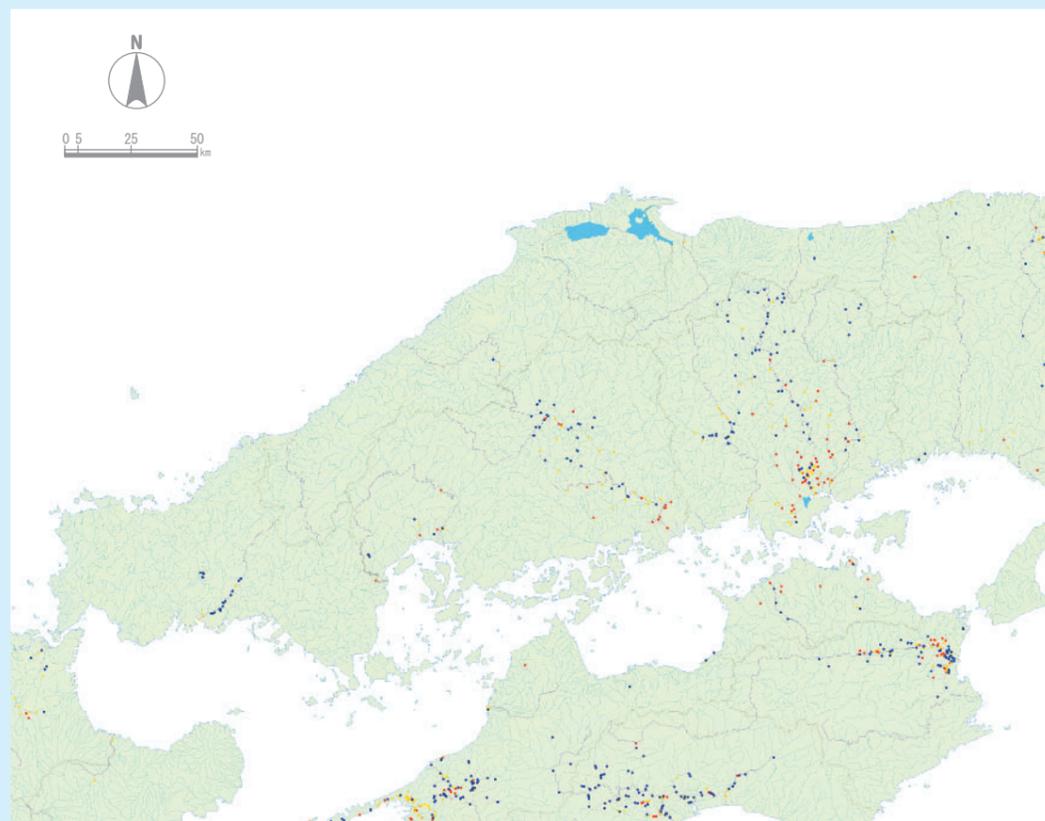
※ これらのマップは、2007年6月3日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

- 毎年同じ地点で調査を行っているので移り変わりがわかってよいと思います。
- CODと生活排水との関係を詳しく住民、企業、子どもたちに説明できることが環境問題を考えるきっかけになると思います。
- 子どもたちみんなが測定をやりたがり、戸惑った。ごみ、植樹の調査はしたが今後は川の生きもの調査にも取り組みたいと思います

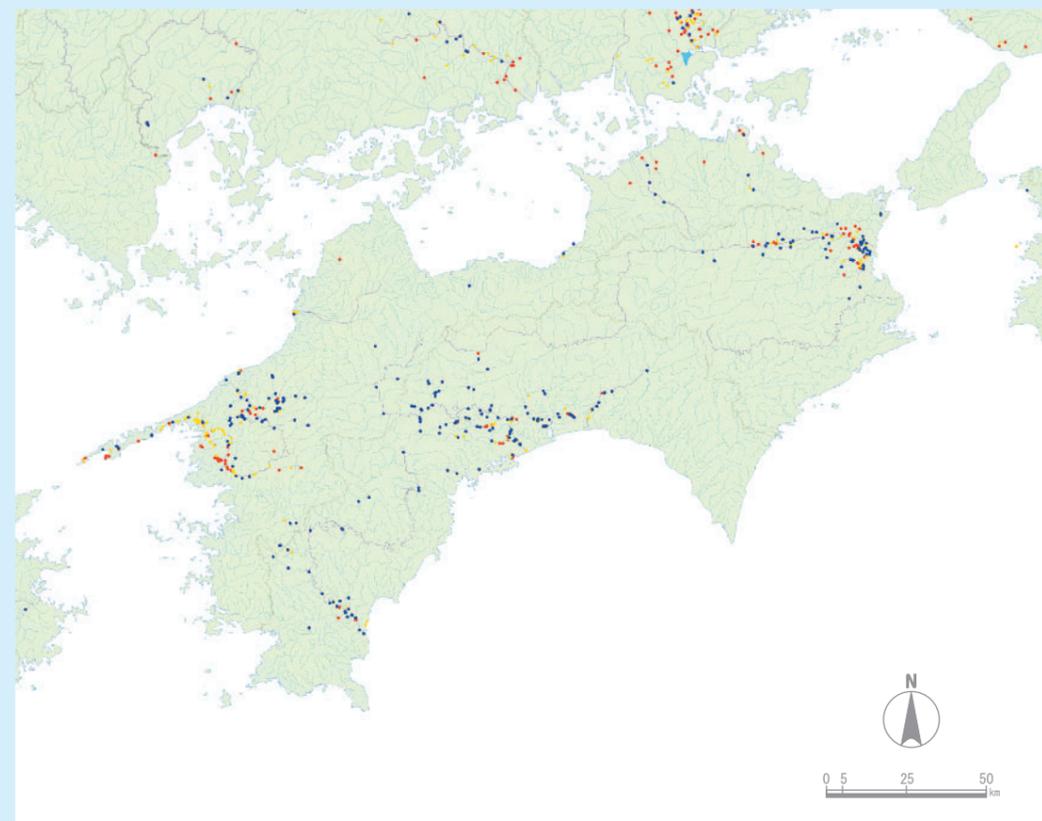
- 組織化が進まず少人数のため一日に全地点調査できませんでした。今後の課題です。
- 楽しく調査することができました。機会を提供いただきありがとうございます。
- このような調査に参加することで、子供たちも身近な環境問題に興味を持ち始めたように感じます。

- 凡例・
- COD(D)・ 0～3 mgO/L 未満
 - COD(D)・ 3～6 mgO/L 未満
 - COD(D)・ 6 mgO/L 以上

中国地方



四国地方



※ これらのマップは、2007年6月3日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

○初回でしたので、今回は私達グループメンバーのみで試行しましたが来年からは地元の小中学生に声を掛けて未来への橋渡しをはじめたいと考えております。

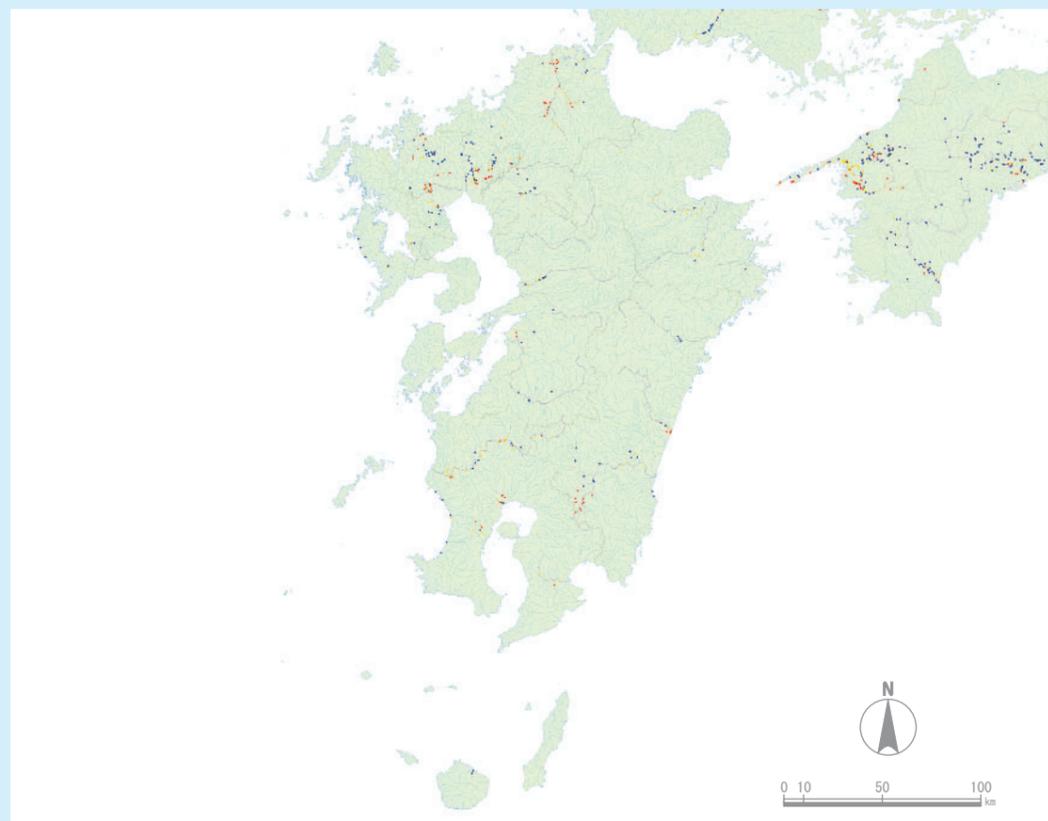
○水の汚染は見た目にはわからないものだと感じました。この調査を理科の授業に取り入れたら、都市と地方の交流も生まれ、お互いが水の大切さ、それぞれの地域の認め合いが出来るのではないかと思います。

○今年は雨が少なく採水に苦労した地点がありました。今後もいろいろと困難なことはあるかとは思いますが、細くも長く続けて行きたいと思います。

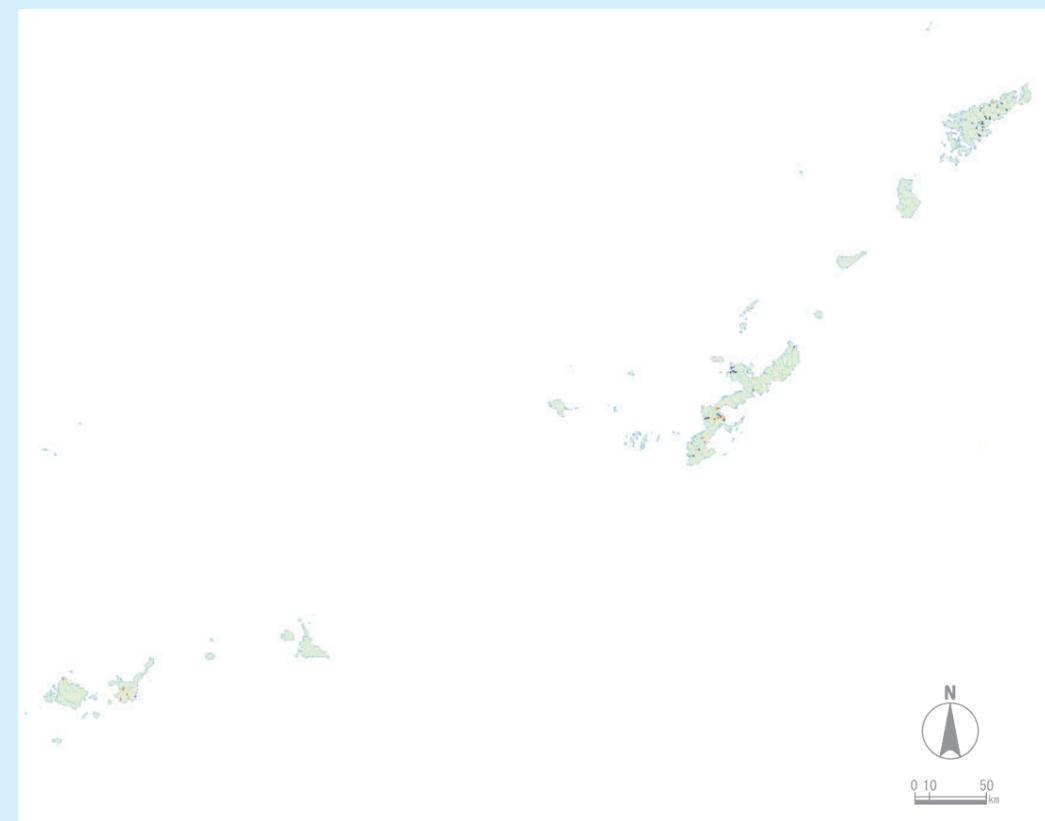
○参加してくれた小学生達も保護者の方もとても興味深く又楽しく調査が出来ました。みんなで改めて川をきれいにしなければと感じたところです。来年も同じ場所で出来ればよいと願っています。

- 凡例・
- COD(D)・ 0～3 mgO/L 未満
 - COD(D)・ 3～6 mgO/L 未満
 - COD(D)・ 6 mgO/L 以上

九州地方



沖縄地方



※ これらのマップは、2007年6月3日を中心に全国の市民団体等が実施した簡易な調査に基づくものです。調査地点の選定も調査主体が独自に行っており、また調査も一度限りですので、このマップのデータがその河川の水質を必ずしも代表するものではありません。

○調査後、川のウォーターレタスを排除していたら近所の小学生が手伝ってくれました。身近な水辺で自然とのふれあいを感じてもらえたと思います。
○現在の子供達も水辺の生き物に恵まれ、地域の人々も、子供クラブの環境活動に着目し、行動するまになりました。「笑顔でつなぐゆたかな水辺」ありがとうございます。

○今回は、観察会を開催して一般市民と調査しました。
○学校行事等の重なりにより、時間がとれず少ない地点での調査になってしまいました。参加して今まで注意して見る事がなかった川の様子などがよくわかりとてもよい体験をすることができました。

※この他にいただいたご意見については、今後の調査実施の際、参考とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

VI 一斉調査結果の活用事例紹介

本調査を中心に全国各地で独自にまとめたマップや報告書、ホームページ等の取りまとめ結果が事務局に多数寄せられています。特にマップについては各地、各流域で独自のまとめ方をしており、特徴的なものが数多くありました。それらの事例を紹介いたしますので、参加した皆さんの今後の活動に役立てていただきたいと思います。

事例1 ひじゃがわ てとりがわ 比謝川 (沖縄県) 手取川 (石川県) NPOブナガワ・ヘリテージクラブ

2007年6月10日、「身近な水環境の全国一斉調査」の関連企画「水質調査 IN 比謝川・手取川」を石川県（手取川と沖縄県（比謝川）で同時に実施いたしました。http://www.bunagaya.net/report_20070610.htm

沖縄県：比謝川（ひじゃがわ）

比謝川は、沖縄本島の山間部を源流に平野部の街から海へ続く一般的な河川パターンとは違い、街中の住宅街の外れが源となっている特徴から、源流・上流域における生活雑廃水による水質の影響が大きく、市民の環境意識を表す河川ともいえます。



石川県：手取川

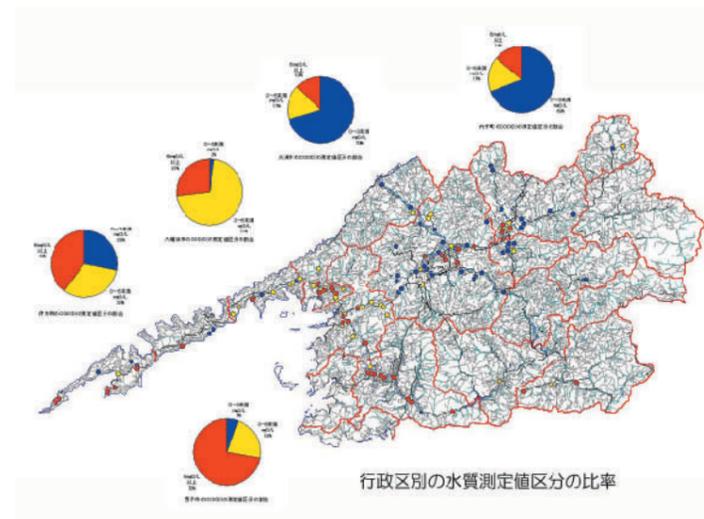
手取川は霊峰白山（標高2,702m）に源を発する石川県最大の河川です。流域の9割を山地が占め水源から河口までの平均勾配は約27分の1という我が国为数の急流河川でもあります。石川県では初めての取り組みなのでバックテストの扱いが思うように行きませんでしたでしたが初めて参加する子供達と同じ目線で楽しめた事がとても有意義でした。



沖縄県と石川県、子供たちが離れた場所ですが、「同じ空の下」で水質調査や生き物調査をしています。それぞれの地域で調べたことを比べたりしたら楽しいですね。こういった輪が日本中で広がってくれることを期待します。（全国水環境マップ実行委員会）

事例2 ひじかや 肱川 (愛媛県) NPO法人かわうそ復活プロジェクト

身近な水環境の全国一斉調査 2007年に参加して調査しました。南予では、NPO法人 かわうそ復活プロジェクトが呼びかけて、大洲農業高校の生徒さんやさんざら自然塾などの団体や個人のかたにも手伝っていただいて、調べたものを、流域や行政区でまとめました。それを、地域の勉強会や学校の総合学習で利用し、自分たちの地域を見直すことに役立てています。



事例3 **てしおがわ** 天塩川 (北海道) 天塩川リバーネット21

朔北の大河「天塩川」は北海道遺産に指定され、豊かな自然環境に恵まれた最北の一級河川です。河川環境をより一層認識するため、昨年から『身近な水環境の全国一斉調査』の皆さん方の仲間に入れていただき、調査が始まりました。調査には、天塩川リバーネット21のメンバーを中心に、地域の団体や子どもたちの協力を得ておこなわれましたが、調査結果は、私たちが考えていたものとは異なっていることに気づきました。今後一層、より良い水環境づくりに取り組んでいかなければならないと考えています。また、事業内容等の報告につきましては、天塩川リバーネット21の会議や地元地方紙などでおこなって来ていますが、まだまだ不十分ですので、多くの方々の目に触れ理解されるよう努力していきます。

「天塩川」の流域全体を考えると、現調査地点とともに下流域の自治体や団体にも呼びかけをおこない、その輪を広げていくことが必要であると考えていますので、これからもより多くのデータをみんなで共有できるように運動を推進していきます。

身近な水環境の全国一斉調査に参加



天塩川とその支流のCOD調査

河川名	調査市町村	調査地点数	COD最大値	COD最小値	COD平均値
天塩川	中川町・音威子府村 名寄市・士別市	6	5	1	2.61
剣淵川	士別市・剣淵町・和寒町	5	7	4	5.33
名寄川	下川町・名寄市	5	4	2	3.20
旧天塩川	音威子府村	1	6	6	6.00
仁尾川	中川町	1	4	2	3.00
ペンケナイ川	中川町	1	2	0	0.67
音威子府川	音威子府村	1	0	0	0.00
賢恵文川	名寄市	1	6	6	6.00
有利里川	名寄市	1	4	4	4.00
タマウシナイ川	名寄市	1	1	1	1.00
風連別川	名寄市	1	3	2	2.33
金川	士別市	1	4	3	3.33
オキケンナイ川	美深町	1	6	5	5.33

全国水環境マップ実行委員会名簿

(2007年9月1日現在)

VII

全国一斉調査や水辺の活動について何かございましたら、事務局または各地の水環境マップ実行委員会にお問い合わせください。

実行委員

氏名	団体名	都道府県	TEL	E-mail
実行委員長				
小倉 紀雄	みずとみどり研究会	東京都	042-327-3169	mizutomoriken@ybb.ne.jp
実行委員				
野村 直也	NPO法人十勝多自然ネット	北海道	0155-22-7511	nomura-n@po.iijinet.or.jp
上田 盛一	NPO法人天塩川リバーネット21	北海道	01654-9-6711	revernet21@ace.ocn.ne.jp
金子 博	NPO法人パートナーシップオフィス	山形県	0234-26-2381	npo-po@nifty.com
沼澤 篤	社団法人霞ヶ浦市民協会	茨城県	029-835-2252	kca@cg.mbn.or.jp
川村ヒサオ	NPO法人荒川流域ネットワーク	埼玉県	048-449-0055	suishitsu@ara-river-net.jp
丹野 忠弘	新河岸川水系水環境連絡会	埼玉県	048-466-0916	y.fujii@guitar.ocn.ne.jp
倉 宗司	身近な川の一斉調査実行委員会	東京都	042-562-8863	sakkoganeikura@yahoo.co.jp
石田 幸彦	浅川流域市民フォーラム	東京都	042-621-1779	CBB00853@nifty.com
佐藤 正兵	NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム	東京都	03-3654-7240	renraku@cleanaid.jp
加藤 功	NPO法人新潟水辺の会	新潟県	025-230-3910	ecoline@mvd.biglobe.ne.jp
風間ふたば	Yamanashiみずねっと	山梨県	055-220-8193	kfutaba@yamanashi.ac.jp
沖野外輝夫	諏訪環境まちづくり懇談会	長野県	0266-58-0490	okinow@po2.lcv.ne.jp
北田 俊夫	NPO法人びわこ豊穰の郷	滋賀県	077-583-8686	houjyou@lake-biwa.net
山崎 久勝	NPO法人蒲生野現倶楽部	滋賀県	090-7240-4675	
桑村 善彦	財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構	大阪府	06-6920-3035	kuwamura@byq.or.jp
池田 満之	旭川流域ネットワーク	岡山県	020-4668-5628(FAX)	okakawa2@yahoo.co.jp
生野 宣宏	NPO法人仁淀川お宝探偵団	高知県	088-893-3275	ngckk745@ybb.ne.jp
大西 正國	NPO法人大淀川流域ネットワーク	宮崎県	0985-20-2377	ooyodogawa@ace.ocn.ne.jp
小野 朋典	リュウキュウアユを蘇生させる会	沖縄県	090-1361-1847	kaiyo@sci.u-ryukyu.ac.jp

事務局

氏名	団体名
高橋 克彦	AMR
菅谷 輝美	東久留米ほとけどじょうを守る会
本間 君枝	みずとみどり研究会
梅本 誠子	東京農工大学
安達可奈子	東京農工大学
松島せり夏	東京農工大学
佐山 公一	みずとみどり研究会
井田 泰蔵	国土交通省河川局
増田 大美	国土交通省河川局
吉野 英夫	財団法人河川環境管理財団
吉川 泰司	財団法人河川環境管理財団

アドバイザー

氏名	団体名
岡内 完治	株式会社共立理化学研究所
今田 陽子	株式会社共立理化学研究所
星野 順子	みずとみどり研究会

オブザーバー

氏名	団体名
小堀 洋美	武蔵工業大学

小倉 紀雄 全国水環境マップ実行委員会 実行委員長

日頃、親しんでいる身近な水環境は簡単な方法で調べることができます。

「身近な水環境の全国一斉調査」は市民グループと国土交通省・(財)河川環境管理財団が連携し、実施しています。本調査は、統一した調査マニュアルと簡単な調査器材(事務局から無償で配布)を用い、全国で一斉に行います。

調査結果をわかりやすいマップとして表現することで、身近な水環境の様子が良くわかります。この調査を通して水環境に関する市民の理解と関心が、いっそう高まることも期待されます。

2007年の第4回の調査は8,100人を超す参加者で実施されました。

詳細な調査結果は、本紙P4または調査専用ホームページ(URL <http://www.japan-mizumap.org/>)や国土交通省河川局のホームページで公表されています。第5回「身近な水環境の全国一斉調査」は下記の要領で実施します。多くのみなさんのご参加を期待しています!

日時・ 2008年6月8日(日) 世界環境デー(環境の日)に近い日曜日

測定項目・ 気温、水温、COD、その他

測定方法・ 調査マニュアル、調査キットに基づき測定(※1)

参加申込・と締切り 専用ホームページダウンロードまたはP22の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の連絡事務局(みずとみどり研究会)に、2008年3月10日までに送付下さい。なお、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。参加申込された団体はホームページで公表させていただきます。

申込・お問合先・事務局 全国水環境マップ実行委員会事務局(問合せのみ)

(※2) 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9 財団法人 河川環境管理財団内
TEL: 03-5847-8303 URL: <http://www.kasen.or.jp/>

連絡事務局 みずとみどり研究会気付(申込・問合せ)

〒185-0021 東京都国分寺市南町3-23-2 小松ビル3階 TEL/FAX: 042-327-3169
E-mail: mizutomidoriken@ybb.ne.jp URL: <http://www.japan-mizumap.org>

※1 調査キットは、参加申込者に2008年5月頃に配布予定です。

※2 上記以外にも最寄の国土交通省河川事務所でも承ります。

全国一斉調査 お申し込み先

FAX: 042-327-3169 E-mail: mizutomidoriken@ybb.ne.jp

第5回 身近な水環境の全国一斉調査 参加申し込み用紙

参加申し込み用紙はホームページ(<http://www.japan-mizumap.org/>)からもダウンロードできます。
3月10日までに必ずE-mailまたはFAXでお知らせ下さい。

■ これまでに全国一斉調査に参加したことはありますか

過去の参加あり・ 初めて

■ 参加グループ名

以前の全国一斉調査に参加された方でグループ名の変更がある場合には昨年の登録名もお書き下さい。団体名が異なると経年データとして結果が反映されません。

参加グループ名(個人参加の場合は参加者氏名、ただし個人情報保護の関係で個人名の公表は致しません)

変更前のグループ名

■ 参加グループの連絡責任者 (個人参加の場合はご記入の必要はありません)

■ 連絡先 (グループの場合は連絡責任者の連絡先、個人の場合はご自宅など)住所、電話、FAX、E-mail(特にE-mailアドレスははっきりとお書き下さい・携帯電話のE-mailは不可)

住所:〒 -

電話 - - FAX - -

E-mail

■ 調査予定地点名 河川名など(例)○○県 ○○川、××用水路、△△池。

■ 河川以外の水路・水辺等で調査を実施しますか

河川以外の水路・水辺(農業用水路、ため池等)で行う調査地点がある場合には、原則として水路・水辺等の管理者や所有者の許可を得ることが必要となります。「はい」とお答えの方は別添「河川以外の調査了解調査票」にご記入の上、事務局に申し込み用紙と一緒に提出ください。(専用HP上の詳細マニュアルの注意事項を参照してください。)

はい・ いいえ

■ 調査予定日 ただし、結果の返送締め切り日(6月末日)より前に実施してください。

6月8日に実施する・ 6月8日に実施できない【その場合の予定 月 日】

■ 調査予定地点数 水質調査キットの事前準備のため、必ずお書きください。

・ ・ ・ 地点(水質調査キットの事前準備のため、必ずお書きください)

■ マニュアルの配布について

調査キットと調査マニュアル類が2008年5月頃に事務局より送られてきますが、マニュアル類に関しては専用HPからもダウンロード可能です。経費節減にご協力ください。

マニュアル類の配布を希望・ マニュアル類はHPからダウンロード可能なので送付は不要

■ 今後の連絡手段

今後のご連絡についてはEメールを中心に行わせていただきます。Eメールをお使いでない方は、ご希望の連絡手段を、以下にチェックして下さい。

FAX・ 郵便物など・ 電話

■ 参加申し込みの確認はホームページ(<http://www.japan-mizumap.org/>)でできます。